

組 報

真宗 おおだ東

第 2 号

2013.10.20発行

発行所

真宗大田東組
組報編集部

答えの出ない「問い」に向き合う

大田東組 連続研修(連研)をとおして

大田東組 連研事務局

松 浦 英 篤

(大田町・真浄寺)

「この年齢になって、まさかお寺で『何のために生きているのか』をじっくり考えることになるとは思わなかったわ。」

若い頃から仕事ひと筋。退職後、実家に戻られ、縁あって「連続研修会」(以下、『連研』と記載)に参加された方の、話し合い法座でのひとコマです。

連研は、「宗教とは?」「お仏壇とは?」「浄土とは?」「環境問題とみ教えとは関係あるの?」など、仏教に関する素朴な「問い」について、参加者がグループになって語り、聞き合う形での研修会です。月に一度、夜、大田東組内のお寺が会場となり、12回にわたり連続して研修をおこないます。参加は自由で、特に条件はありません。「敷居が高いのでは?」という声もありますが、ふだんのお寺での法話形式での聴聞とは違って、参加者同士で、自分の思いや疑問を率直に話し、聞き合うということを重ねる場です。

連研のねらいは「物知り同行」を増やすことではありません。すなわち、教養としての仏教の知識を習得することを目的とするのではなく、「模範解答」もなければ、「正解」か「不正解」かもわからない。そのような釈然としない戸惑いの中にも、冒頭で紹介した連研参加者の方は、今までの自分の価値観や社会での常識、科学などではかることが出来ない「答えの出ない問い」に向き合おうとされているように感じます。何気ない日常を送っている時には気にも留めていなかった「問い」や「ひっかかり」「つまづき」に気づき、世間の常識や知識だけに囚われていた自分自身の姿から、これまでとは違う新たな自分に出会い続けることこそが連研の大きな意義の一つであると思います。

このように、連研では、自身を「み教え」に「問い、聞き、語る」といわれます。親鸞聖人が伝えてくださった「本願念仏のみ教え、すなわち、阿弥陀如来の「本願を信じ念仏を申さば仏になる」ということを念頭に置き、深めていくことも必要となってくるでしょう。

親鸞聖人は、ものごとのありようや道理を明らかにとらえることができない、煩惱だらけの「私」のすがたを、終わりのない真つ暗闇にたとえて、『無明長夜』と表現されました。だか

らこそ、阿弥陀仏の「生きとし生けるすべてのものをもらさず必ず苦悩から救いたい」という誓い(誓願)を大いなる灯炬とせよ、としてお示しくださいました。

それは、はからずも、決して思い通りにならない人生の中の「問い」を「私」のこととして捉えつつ、「み教えに問い、聞き、語る」話し合い法座を通し、親鸞聖人の伝えてくださった本願念仏のみ教えをよりどころとして生きてゆくベースを「私」の中で築いていくいとなみであるといえるでしょう。

さらには、私をとりまいて「すべてのものが等しく救われていない」社会の不条理や矛盾を問うてゆくことこそが、み教えに出会い、目覚めていく真宗念仏者の姿であるとともに、み教えが現代の社会の中にも生きた姿となつてゆくのであろうと思うのです。

答えの出ない「問い」に向き合う生きざまは、少々しんどいことですが、自分自身に向き合い、仏法に向き合うことにほかなりません。門信徒の方のみならず、僧侶とともども、「連研」の意義を再度確認しつつ、あゆみを進めてまいります。



連続研修への思い

僧侶

専勝寺 住職 金盛麻衣子

私の地元の同級生や職場の人と話をする時に、宗教的な問いを受けることがあります。

少し前までの私は、その質問に対して答えきれずどう伝えようかと悩みました。なぜなら、彼らは浄土真宗のご門徒ではなく、私が浄土真宗の僧侶とわかって聞いたことかもしれません。「浄土真宗ではこうするのが当たり前」なんて言えません。その事を通して考えたときに、私は浄土真宗の僧侶という立場で多くの門徒さんたちの問いに向きあわず、もしかしららご門徒の方々に對して言葉をおしつけていたのではないかと振り返り思うのです。

「連研のテキストの、この問いはおかしい」というご意見を聞きますが、実際にそのような苦しみ悩む人の声を聞かせてもらうこともあります。生きている限

門徒推進員

教傳寺 門徒 中間 功

りに向き合っていく問いが連研の話し合いの中にあるのだと感じています。私は一人の僧侶として向き合う事も大切だとは思いますが、一人の念仏者として聞き合い、向き合っていきたいです。

今年7月より、大田東組になってはじめての連研がスタートしました。毎回熱のこもった話し合いがされています。私も門徒推進員としてお手伝いをさせてもらっています。

私は4年前、それまで関心の薄かったみ教えや信心について少し勉強してみようと思いましたが、最初のうちには戸惑いの連続でしたが、回を重ねるうちに発言もできるようになりました。このご縁やみ教えを聞く機会をいただきましたが、信心が深まったという思いまでは得られませんでした。

そこで、もう少し深くみ教えを学んでみたいとの思いと門徒としての自覚を深めたいとの思いから、中央教修に参加しました。教修では、全国の仲間と4日間寝食を共にしながら法座での語り合いやお寺の情報交換ができ貴重な勉強と体験

ができました。語り合いの中で自らを問うことの大切さ、気付きの大切さを感じることができました。今回連研に参加しておられる皆さんには、連研を終えられ一人でも多く中央教修に参加していただきたいと願っています。

※中央教修とは・・・

中央教修は、自他ともに心豊かに生きることのできる「御同朋の社会」の実現をめざして、僧侶とともに基幹運動を実践する「門徒推進員」の養成を目的としています。

「門徒推進員」になるには、大田組の連研を終了し、本山(西本願寺)で開催される3泊4日の「門徒推進員中央教修」を受講します。その後、山陰教区教務所長からの委嘱を受け、門徒推進員が誕生します。

設我寺 門徒 生越厚雄

体も元気になり、孫も出来て人生を振り返ったとき、自分の使命について考えるようになりました。若いときから母に言われて設我寺の行事に参加したり手伝いをしたり・・・。

「信心って何ですか」「信心が深まるって何ですか」「信心を深めるってどうすればよいのですか」

私は商売の世界で生きてきました。あるとき誰かが言いました。本当の商売人は寝てもさめても商売人として行動しなければならぬ。言葉使いも商売人として恥ずかしくないように・・・。

信心を深める方法を具体的に知りたいと思つていますが、教えていただきたいも果たして私が体得できるか分かりません。それでも一歩踏み出さなければだめだと思ひ、参加を決意しました。よろしくお願ひします。

正蔵坊 門徒 山崎もとみ

秋風が心地よく、苦しかった猛暑がうそのように遠ざかっていきます。

日頃は、組長さんを始め役員の皆さま、またそれに係る多くの皆さまにご尽力いただき、連続研修が開催されることとなりました。再び大切なご縁をいたたく機会に恵まれ、実り多い一時となりますよう、思いを馳せているところです。

私自身、2度目の受講となりますが、前回は大田町内の5ヶ寺において開催されました。今回は12の寺院で開催され、

遠くは三瓶町で開催されることになりました。大田町外のご住職さんにもお会いでき、ご住職さんの顔ぶれも新たになりました。初めて行くお寺もありますので、少しばかり新鮮な空気を感じています。受講の際はいろいろな意見が飛び交い、楽しく過ごしていますが、一つ残念に思いますのは、受講者が少ないことでした。私の歩みも、様々なしがらみの中のご縁であり、寂しいかな、決して自発的なものではありませんでした。私自身、浄土真宗との向き合い方が、年々難しくなつてきています。むしろ、出会いに感動していた若かりし頃が懐かしくさえ思ひます。この度のご縁で、絡んだ糸が解きほかれるがごとく、道が見えてくることを願つています。

徳善寺 門徒 佐々木正明

私は住職から、大田組・三瓶組合同連研の誘いがあり、1回目の会に参加。勤行、仏事作法、これはよい研修だと思ひました。次から話し合い法座が始まり、司会者を中心にいるいろいろな意見を交わすうちに、これまで自分が思つていたことと違うように思えてきました。いろいろ考えているうちに、「浄土真宗が何か」

分からなくなりまし。途中でやめることには悔いが残るようで、疑問だらけの中で12回の連研が終わりました。月日が過ぎて気がつく、仏壇に向かう自分の姿があるではありませんか。毎日仏壇に向かう時の気持ち、手を合わせると気持ちに変化が感じられるようになりまし。今では参加してよかったと思ひます。今私は、浄土真宗を知り、仏壇のお飾りや作法についてもつと学びたいと、2度目の連研挑戦です。



各部の取り組みから

青少年部会（キッズサンガ）

夏休み恒例のキッズサンガ・サマースクールを開催！

常見寺 住職 大草 顕信

去る、7月28日、恒例のキッズサンガ・サマースクールを子ども・スタッフ総勢約80名で開催しました。

日中は、ご法話を聞いたたり、ゲーム大会など、夕べのつどいでは、キャンドルサービスや花火等々を行いました。子どもたちは、日頃慣れてない正座もがんばり、班に分かれての行動では、年上の子は、下の子の面倒をよく見てくれました。

このサマースクールを通じて、他のいのちのつながりによって生かされていることを感じてもらう一助になればと念ずることです。



子どもがいない地域でキッズ

専勝寺 門徒 坪野 良子

8月16日、第5回専勝寺・禮善寺連合キッズサンガを子ども36名、大人24名、計60名の参加をいただき、盛大に開催することができました。

5周年の記念事業では、畳1枚位の大きな額に色とりどりの和紙を、大人が子どもへ手渡し、重ね合わせて、やさしい眼差しの仏さまの絵が仕上がり、また一つお寺の宝が増えました。

お昼は定番の「たこやき」と「やきそば」です。仕込みが足りないほどのおかわりを求められ、大盛況でした。つくづく会を重ねることの大切さを痛感いたしました。

今後この活動を機縁に、若年層の輪を広げていかねばならぬと思わせてもらいました。

思い起こせば、今は亡き前任職の篤い想いに導かれて始まったこの集い。

「人が一人でもいる限り、寺院活動を継続していく」と申されたこの重みあることを継承してまいりたいことです。



社会部会

「平和と人権のつどい」開催される！

社会部部长 菅原 憲

大田東組社会部主催の平和と人権のつどいが、「あすてらす」にて開催されました。昨年の原発問題に続き「憲法どうなる？」と題して広島市立大学平和研究所・憲法学の河上暁弘さんに憲法改正問題を中心にお話いただきました。35名の僧侶・ご門徒の参加でした。その講演の内容と質疑を私見を交え要約させて頂きます。国を守る為に軍隊は必要ではないか？という疑問がでました。「国を守るために」という言葉が濫用されています。しかし、そこで言う守るべき「国」とは何でしょうか？「国家」でしょうか？「国民」でしょうか？大変あいまいな言葉の中に大きなごまかしが含まれていることを見逃すべきではありません。ここで、最大の問題は、国家の独立や国民の生命や統治体制などさまざまあげられる防衛目的の中で、優先順位をどのように決めるのか、とくにぎりぎりの場面で何を犠牲にして何を守るのかということ。ここで、「もちろん国家」と答えるのが、軍事的防衛論に他なりません。なぜなら、戦争は、国民の命を犠牲にすることを躊躇しないからです。彼らの論理では必然的に、国民の命よりも国家の独立、そして統治体制が大事ということになります。

もし防衛の最大目的を「国民の生命」とするならば、軍事的防衛論はまったく有効ではないということ。核兵器の存在はその証拠と言うべきですが、仮にそれを脇においても、大量殺戮兵器が飛び交う現代戦争では、犠牲となるのは圧倒的に非戦闘員である我々市民です。そのことは、日本においてはとりわけ強く該当するものでしょう。これだけ狭い国土に住宅や工場が密集し、多くの原子力発電所、危険物貯蔵庫、自動車、石油・ガソリン・ガスの備蓄庫を抱え、また原材料・食糧の大半を海外に委ねる日本において、軍事力による防衛は危険な幻想そのものです。もはや軍事力による防衛論は、まったくもって非現実的であると思います。それに対して、憲法9条のいう非戦・非武装平和主義は、単に人類的理論であるにとどまらず、日本においても世界においても優れて現実的意味をもつものではないでしょうか。(文責 菅原)

門徒総代部会

門徒総代研修旅行を実施して

立善寺 住職 菅 本了道

7月11日参加者22名が集い、大田東組としては初めての研修旅行をおこなった。バスの中での担当の挨拶、真宗宗歌の唱和、ユーモアを交えた自己紹介を行い、最初に山陰教堂(松江)に参拝。記念撮影、本堂

にて組長の調声による『重誓偈』のおつとめ。教務所長から教務所の歴史・役割の説明を受けた後、施設内を見学。初めての方と何度もお参りしたという総代が半々であった。

次にこの度の研修旅行のメインともいえる中村元記念館に向った。資料等の見学のうち、我々のために記念館の理事長である安来清水寺貫主が説明して下さった。中村博士には3万冊の蔵書があり、それを今調査・整理している最中とのこと。その大半の本に先生のメモの記入されたカードが挿入してあるとのこと、膨大な本に目を通していたことを知り、改めて感服したと話された。その後玉造温泉に浸り、昼食を兼ねた懇親会。総代によるマジックショーもあり、大いに盛り上がった。古代出雲歴史館、島根ワイナリーを経て、お東のお寺である胎泉寺に参詣。東西本願寺の分立の歴史等を学ぶことができた。参加者の評判もよかったようで、今後このような研修旅行を続けたいと思つたことです。



組講(門信徒・僧侶研修会)

研修部長 大石寛隆

本年度の組講は、年度の後半に開催する予定です。そこで、ここでは昨年度に開催した組講の様子について述べてみます。

平成25年3月30、31日の2日間、「あすてらす」で行いました。講師は、龍谷大学文学部教授の鍋島直樹先生で、「アジャセ王の救いと親鸞聖人のみ教え」とのお話を聞かせていただきました。

1日目は、仏説観無量寿経のお話を基に、「王舎城の悲劇」について解説され、「悪人の救いとは、自らの罪と向き合うことが人としての生きる道である」さらに、「どんな人も本当に大切にされたとき、責任を持つて努力できる」のだと説かれました。

2日目は、「浄土真宗のみ教えを明確にした上での私たちの実践活動」というテーマでした。東日本大震災の後、数回にわたって現地へ行かれた講師の体験をもとに、「寄り添うことの大切さ」をお話されました。命の大切さについても、具体的な現地での様子をもとにお話くださいました。

この研修会には、2日間で組内寺院の半数の21ヶ寺から、女性41名、男性72名の計113名の皆さんが参加されました。門信徒の方が75名と多かったです。僧侶や寺族がもっと多く参加されるとよかったです。



浄教寺

(川合町南)

1594年 開基：釋正玄
現在の住職は第16世



西方寺

(川合町鶴府)

1800年 開基：釋崇信
現在の住職は第8世

川合町7つの寺院を紹介します。
※次号は久利です。

組内
お寺めぐり



蓮乗寺

(川合町忍原)

1708年 開基：釋文悦
現在西念寺住職が代務



妙覚寺

(川合町瓜坂)

開基：大正時代
現在の住職は第4世



善性寺

(川合町程原)

1504年 開基：釋善観
現在の住職は第20世

浄土真宗本願寺派の本山は本願寺で、親鸞聖人が開かれた本願念仏の教えをよるこぶ門信徒のこころのふるさとです。境内には阿弥陀堂・御影堂をはじめ、桃山文化を代表する建造物や庭園が今日まで大切に受け継がれており、1994(平成6)年、世界文化遺産に登録されました。

(本願寺ホームページより)



善林寺

(川合町吉永)

1682年 開基：生越宗兵衛
現在の住職は第14世



眞光寺

(川合町向吉永)

開基：未詳
現在の住職は第12世

2013年 報恩講のご案内

寺院名	日 時	講 師 名
川 合 地 区		
西方寺	11月26日(火) 13:30～	岡田 哲水 師 (美郷町 西念寺)
浄教寺	11月21日(木) 13:00～	清胤 弘英 師 (広島県 正覚寺)
善性寺	10月29日(火) 13:00～ 30日(水) 7:00～ " 13:00～	大原 一穂 師 (祖式町 浄土寺)
妙覚寺	11月23日(土) 13:30～	菅 秀範 師 (川合町 善性寺)
蓮乗寺	11月16日(土) 13:30～	未 定
眞光寺	11月 1日(金) 13:00～	岩根 了達 師 (久利町 浄賢寺)
善林寺	11月 7日(木) 13:00～	菅原 憲香 師 (大田町 正蔵坊)
久 利 地 区		
浄賢寺	11月15日(金) 13:00～	菅 秀範 師 (川合町 善性寺)
圓滿寺	11月 2日(土) 13:00～	窪田 英俊 師 (温泉津町 願林寺)
信楽寺	11月27日(水) 13:00～	菅原 昭生 師 (温泉津町 西楽寺)
西善寺	12月10日(火) 13:00～	菅原 龍憲 師 (大田町 正蔵坊)
専徳寺	12月 1日(日) 13:00～ 2日(月) 13:00～	相山 一善 師 (江津市 光善寺)
念願寺	11月18日(月) 13:00～	岡田 哲水 師 (美郷町 西念寺)
長 久 地 区		
蓮教寺	11月 1日(金) 13:00～	岡田 哲水 師 (美郷町 西念寺)
浄土寺	11月10日(日) 13:00～ 11日(月) 13:00～	菅原 俊軌 師 (富山町 高林寺)
正願寺	11月12日(火) 13:00～	波北 頌 師 (江津市 光善寺)
久 手 地 区		
松林寺	11月 1日(金) 13:00～	岡本 広樹 師 (桜江町 長玄寺)
極楽寺	11月20日(水) 13:00～	菅原 昭生 師 (温泉津町 西楽寺)
正専寺	11月 5日(火) 13:00～ 6日(水) 13:00～	菅原 龍憲 師 (大田町 正蔵坊)
鳥 井 地 区		
設我寺	10月 9日(水) 13:00～	菅原 俊軌 師 (富山町 高林寺)
法専寺	10月17日(木) 13:00～ 18日(金) 13:00～	藤谷 崇文 師 (温泉津町 願楽寺)

寺院名	日 時	講 師 名
大 田 地 区		
西楽寺	11月 4日(月) 13:00～ 5日(火) 13:00～	山本 昭淳 師 (東京都 長玄寺)
正蔵坊	11月28日(木) 13:00～ " 19:00～ 29日(金) 13:00～	三浦まゆみ 師 (岐阜県 西順寺)
常見寺	11月23日(土) 13:00～ " 19:30～ 24日(日) 13:00～	伊藤 元 師 (北九州市 徳蓮寺)
真浄寺	11月 9日(土) 13:00～ " 19:30～ 10日(日) 13:00～	福間 信隆 師 (久手町 極楽寺)
明善寺	12月 5日(木) 13:00～ 6日(金) 13:00～	栗津 慈眼 師 (広島県 教善寺)
三 瓶 地 区		
専勝寺	11月 3日(日) 13:00～	吉川 幸男 師 (飯南町 西蓮寺)
西教寺	11月 4日(月) 13:00～	吉川 幸男 師 (飯南町 西蓮寺)
宗正寺	11月19日(火) 13:00～	窪田 英俊 師 (温泉津町 願林寺)
禮善寺	11月10日(日) 13:00～	未 定 ～ともしび法座～
教傳寺	11月24日(日) 15:00～	福間 信隆 師 (久手町 極楽寺)
照善寺	11月20日(水) 13:00～	吉川 幸男 師 (飯南町 西蓮寺)
浄善寺	11月16日(土) 13:00～ 17日(日) 13:00～	徳川 眞英 師 (長久町 浄土寺)
徳善寺	11月13日(水) 13:00～	三明 慶輝 師 (温泉津町 瑞泉寺)
波 根 地 区		
大恩寺	10月21日(月) 13:00～	中村 英晴 師 (五十猛町 長泉寺)
立善寺	11月21日(木) 13:00～ 22日(金) 13:00～	小玉 教雄 師 (邑南町 浄福寺)
富 山 地 区		
専念寺	11月 3日(日) 13:00～	清胤 祐子 師 (広島県 正覚寺)
福泉寺	11月13日(水) 13:00～	宮脇 英世 師 (鳥井町 設我寺)
高林寺	10月27日(日) 13:00～	隼田 真生 師 (隠岐の島町 真行寺)

報恩講(ほうおんこう)とは、親鸞聖人のご命日にあたって、そのご恩を報謝する法要です。

**皆さま 誘い合わせて
お詣りください**

吾^{われ}亦^も紅^{こう}

「研修会でレジュメをもらって帰り、段ボール箱に放り込んでおくだけ。意味がありませんかしたら…」と愚痴を洩らしたとき、ある人曰く「それでいいよ、いつかそれを取り出してみるといいことがあるから」

▼そのいいことを一つ。「ひとりじゃなかもん みほとけと 大悲の朝をむかえます」(佐藤キナ) 最近思い出したこの讃佛歌の作詩者は、佐賀県の老人ホームで生涯を終えた門徒のお方らしい。佛願を仰ぎつつ戦後を生き抜かれたに違いない。朝起きるのがつらい者にとって肩が少し軽くなる安堵を覚えるとともに、苦手を克服しようとのみこだわるのも考えもの、との感もあり。

▼人によっては逆に夕方が苦手だという方もある。夕暮れの煙が立ち昇るころに憂鬱感があるという。▼「長い旅路の果てでした 南無阿弥陀仏と目を閉じた しんらんさまでありました 夕陽のような人でした」(釜瀬春鳳) ▼朝夕5時からもうひと踏ん張りという方ごめんなさい。(範)



文芸コーナー

俳句

正蔵坊 門徒 岩田 春枝

背をまるめ

法話を聞くや

花の冷

短歌

正蔵坊 門徒 宅和 淑江

見るからに

親子とわかるその仕草

導師の物言い 恩師に重ねる

信楽寺 前坊守 福間 正子

何よりの 父の形見や法聴けと

吾に残せし一連の数珠

背に一ぱい 風孕^{はら}ませて坂道を

自転車漕^こぎて孫帰^こり来る

大田東組からのお知らせ

組講・門信徒会 運動研修協議会のご案内

期日：平成26年 3月22日(土)、23日(日)

会所：未 定

講師：信^{しが} 楽^{らき} 峻^{たか} 磨^{まる}氏
(元 龍谷大学学長)

※詳細は、2月下旬、各寺院にご案内いたします。

編集後記

▼報恩講が行われていまます。宗祖の恩を忘れないと、いう真宗門徒として最も誇らしい行事です。ぜひお参り下さい。忘恩講にしてはなりません。▼巻頭から3ページ「連続研修」の特集です。連研参加者の体験記を寄せていただきました。12回の連研が終わり、月日が過ぎた気がつくと、仏壇に向かう自分の姿があったという佐々木さんの記事に感動しました。

▼各部の事業を盛り上げるのは一人でも多くの人の参加と協力です。どんな行事があるか、お寺の方角にアンテナを向けておきましょう。

(門徒・朗)